From This Time
前千代田区議会議員
内田 直之
Think,Sence,Studyand Action.

FORWARD since 2011

vol.30 ANNIVERSARY 2024.4

X (Twitter) Facebook YouTube

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです

6月4日（火曜日）にベルサール神田にて『まちづくりシンポジウム2024』を開催します!

日本は世界有数の災害大国

撮影:聖建築設計事務所

2024年元日に能登半島で直下型地震が発生しました。マグニチュードは7.6、最大震度7を観測し、死者は240人を超える大災害となりました。この能登半島地震では、周期1～2秒の「キラーパルス」と呼ばれるやや短周期の地震波が観測されています。

「キラーパルス」とは木造家屋に甚大なダメージを与える周期であり、能登半島地震の死亡要因の7割超が家屋の倒壊によるものと報告されています。

我が国は、その位置や気象等の自然的条件から、台風、豪雨、洪水、土砂災害、地震、津波、火山噴火など自然災害が発生しやすい国土となっています。例えば、日本の国土面積は全世界の0.28%しかありませんが、マグニュチード6以上の大地震の20%は日本で発生しています。また、世界の活火山の7%は日本にあります。そして日本全国には約2,000を超える活断層があるとされています。

日本最古の歴史書である「古事記」には、スサノヲ（須佐之男命）が天に上る際、「山川悉動。国土皆震（山川が轟き響き、大地は皆揺れた）」と地震を連想させる記述があります。また、最古の正史である「日本書紀」には、416年頃に起きた地震をはじめ、684年に起こった「白鳸地震」の記録があるなど、日本の国づくり（まちづくり）は、神話の時代から、災害と共存しながら培われてきました。

千代田区における地震の歴史

過去に大きな災害があった地域では、同様の災害が発生すると言われています。ここ千代田区も、過去の文献から、地震が繰り返し発生したことを知ることが出来ます。1703年に発生した元禄地震は、千葉県野島崎沖（海溝型）を震源とし、犠牲者は6700人、江戸の震度は5～6であったと推定されています。1855年に発生した安政江戸地震は、南関東地震（直下型）のひとつであり、犠牲者は1万人、震度は6と推定されています。そして1923年に発生した関東大震災は、相模トラフ（海溝型）を震源とし、死者・行方不明者は東京府だけでも7万人、震度は6と推定されています。

この様に、安全と言われている千代田区ではありますが、歴史的に見ると直下型と海溝型の地震に繰り返し襲われてきたことが分かります。

高度防災都市 千代田をつくるには?

2022年に10年ぶりに首都直下地震の被害想定が見直されました。今後30年でM7クラスの発生確率は70%とされており、千代田区では被害が最も大きいと予想される「都心南部直下地震」を地域防災計画上の想定地震としています。再開発等による都市の機能更新が進み、平成24年の被害想定と比較すると、死者が336人から77人に、全壊が835棟から150棟、半壊も1,775棟から602棟に減少しています。一方、帰宅困難者は約59万人、避難者はピーク時で約12,600人と増えており、課題も明確となってきました。町会やマンション管理組合、商店街などでも、帰宅困難者や避難者の受け入れに関して、どのように対応していくのか事前準備が必要となります。

また、ビル、マンションが多い千代田区では「長周期パルス」への対策も必要です。「長周期パルス」とは、地震で発生する2秒以上の長周期の地震動であり、高層建築物へ甚大な被害を及ぼす可能性があります。能登半島地震で観測された「キラーパルス」の高層建築版と言えます。NHKスペシャルでも新たな脅威として放映されていました。

広域的な災害や複合的な災害が発生した場合、行政は機能不全に陥る可能性が想定されます。私達一人ひとりが防災意識を高め、主体的に判断・行動することが大切です。また、近所の人たちと助け合いができるよう、地域コミュニティを構築することも重要となります。少し前に、私が住むマンションでは、近隣マンションと共同で防災訓練を実施しました。はしご車搭乗体験や起震車による地震体験、消火器訓練などを通じ、地域の防災力を向上出来たのではないかと思います。

東京そして千代田区における高度防災都市の実現は、私にとって生涯の仕事と考えています。区民だけではなく、在勤、在学、訪問者など全ての人々から被害者を出さない事を目標としています。また、被災する前からまちの在り方を検討する事前復興を推進し、より現実的で実行性のある防災政策と主体的な「自助」「共助」の在り方を、引き続き提言して参りたいと考えています。

①「千代田のまちづくり」に全力で取り組みます。
② 皆様からの「ご相談」に迅速にご対応します。
③ 活動レポート「FORWARD」を定期的に発行します。
④「タウンミーティング」を定期的に開催します。
⑤ 国、東京都、千代田区をしっかりと「繋いで」参ります。

内田直之 5つのお約束

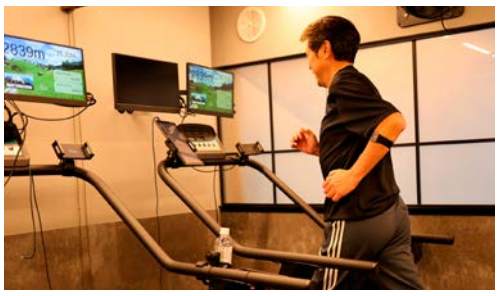
Think

Action

低酸素トレーニングを体験!

低酸素トレーニングという新しいフィットネス施設が千代田区麹町にオープンしました。標高2,500～3,000mの高地環境が再現され、酸素濃度が低い特殊な環境で行うトレーニングにより、効率的な心肺機能の向上や疲れにくい体づくりが期待できます。更には、赤血球やヘモグロビンの生成、毛細血管やミトコンドリアの活性化により、パフォーマンスの向上だけではなく、冷え性改善やダイエット、アンチエイジングなども期待されるそうです。そして低酸素トレーニング最大の特徴は、超効率的な効果が期待できるという点です。平地でのトレーニングに比べ3倍もの効果があるそうです。たった30分の時間でも1時間30分ものトレーニング効果があり、忙しい社会人や主婦の方、受験勉強で運動できない子供たちにも有効です。更には高齢者へのフレイル予防にもお勧めです。ストレッチやヨガメニューも充実しています。ご一緒にいかがですか!

RUN BLUE TOKYO
千代田区麹町3-10-1 TWG麹町B1F



Study

フィッシング被害が過去最多!

今や地域や年齢を問わず誰もがパソコンやスマフォを保有し、インターネットを通じて様々なサービスを利用しています。一方、インターネットバンキングにおけるフィッシング詐欺の被害は拡大を続けています。昨年発生した被害件数は5147件、被害額は80億円といずれも過去最多となるなど、詐欺や犯罪行為が激増しています。ウィルスや不正アクセスなど不安に感じたときは、ひとりで悩まず相談窓口に相談しましょう。

情報セキュリティ安心相談窓口
Tel:03-5978-7509
E-mail:anshin@ipa.go.jp

Sense

世界の街歩き

ウエリントン（ニュージーランド）
人口　50.7万人
面積　290㎢

ニュージーランドはオセアニアに位置する立憲君主制の国家です。イギリス連邦加盟国のため、国王はイギリス国王であるチャールズ3世が兼任しますが、通常はニュージーランド政府の助言に基づき国王に任命された総督が職務を代行しています。1893年世界で初めて女性参政権を実現した国でもあり、37歳で就任したジェシンダ・アーダーン首相は産休を取得されていた事も話題となりました。

ニュージーランド北島の南端に位置する政治の中心地が首都ウエリントンです。10世紀にマオリ人がこの地域を発見し、19世紀には欧州人の入植が始まったそうです。美しい海岸線に沿って広がる街を豊かな丘陵地帯が取り囲み、Windy Wellingtonと呼ばれ風の街としても有名です。ロンリープラネット（有名な旅行ガイドブック）で「世界一魅力的な首都」にも選出されたそうです。

街には素敵なカフェが多数ありますが戸惑いもありました。なんと午後3時、4時には閉店しまうことでした。カフェだけではなく街のお店からゴルフのクラブハウスまで、4時頃には閉まってしまいます。働き方が徹底されていると感じました。夏であれば9時頃まで明るいので、仕事の後は、家族や友人とビーチでBBQをやったり、ゴルフや釣りをしたり、それぞれの時間を楽しんでいる様でした。初めて訪れましたが、自由で、平等で、人に優しく、人生の楽しみ方を教えてくれた素敵な街でした。

議員でさえ自分で考え
行動することは大変でした。

対談企画シリーズ6

工藤勇一
横浜創英中学・高等学校校長／
前麹町中学校校長

×

内田直之

まちづくりに関わる著名な方々と、内田直之との対談を連載でご紹介します。第6回目のゲストは、工藤勇一校長先生にご登場いただきます。

「みんなが違って良い」という
多様性が大切です。

麹町中学校では500項目の学校改革！

内田直之(以下、内田)：麹町中校長在職中は、サッカー協会会長や区議として、部活の地域移行へのご相談や、麹町中での学校改革など多くを学ばせて頂きました。また、最新の著書「校長の力―学校が変わらない理由、変わる秘訣」では、校長や副校長の権限、教員、教育委員会や議会との関り、保護者の関係性を理解する事ができました。早速ですが、麹町中では数多くの学校改革を実現されましたが、当時はどの様な状況でしたか。

工藤勇一校長先生(以下、工藤校長先生)：僕が麹町中に赴任した当時は、私立や中高一貫の「滑り止め」のような位置づけで、120人の新入生のうち第一希望だった子は20人でした。そうした子は自己肯定感が持てず、劣等感を抱えたりやる気が削がれた子も沢山見られました。過去には相当校内が荒れた時代もあり、問題を収めるために厳しい規則や管理を導入した経緯があったようです。麹町中では、子どもたちが本当に自律しながら自らの手で学校を創っていくことを目指しました。

内田：「当たり前」をやめると言う学校改革は、当時大反響を呼びました。具体的にはどの様な改革がなされたのでしょうか？

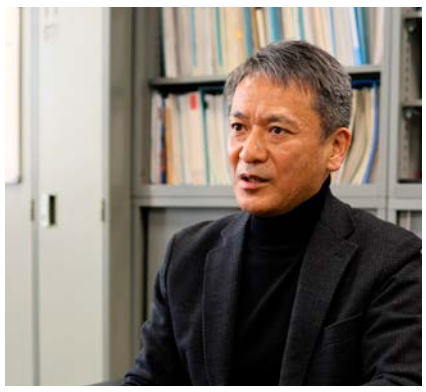
工藤校長先生：服装・頭髪指導をしない、宿題を全廃、定期テストを全廃、固定担任制廃止等々500項目以上に及びました。教員、生徒、保護者など、学校に関わる全ての関係者が当事者意識を持つことで実現できました。これまでの「与える教育」が当事者意識を奪ってきました。あらゆる問題の原因が「与える教育」にあるのなら、解決するのも教育だと考えました。

内田：工藤校長先生は最上位目標として目指すべき「民主主義」の実現のために、教育の現場で力を注ぎたいと言われています。議会人である私にとっても大変興味深いテーマです。

工藤校長先生：右肩上がりで人口が増え続け、経済が発展していた時代は終わりました。多様な価値観が溢れ、「答えのない時代」と呼ばれる現代そしてこれらの社会は、多様な考え方を認め合い、互いの利害を調整する力が必要です。

一人ひとりが当事者になるとは？

内田：私はFORWARD前号で「ウェルビーイングなまちづくり」を紹介しましたが、教育においても「ウェルビーイング」が求められてきました。これからの日本における教育目標となるのでしょうか？



工藤勇一
1960年山形県生まれ、東京理科大学理学部応用数学科卒。公立中学校の教員、目黒区、新宿の教育委員会を経て、麹町中学校の校長として宿題廃止・定期テスト廃止・固定担任制廃止などの教育改革を実行。

工藤校長先生：いま教育の目標について、国際的な議論がされています。「人類が生き続けていける持続可能な社会をつくること」を実現するために教育があるということです。「ウェルビーイング」を実現するために、新たな学習指導要領においても「主体的・対話的で深い学び」を重視しています。これからの子どもたちに求められるのは「知識」や「技能」を組み合わせて、「自分自身の考えを導き出す力」です。そして「考えて行動できる人」を育てることです。

内田：麹町中では、学校改革の揺り戻しが懸念されています。透明ガラスだった職員室を曇りガラスに変える、教室に入れない子どもが学べるスペースが撤去されるなど、学校改革前に戻り、入学希望者も減っていると聞いています。改めてお聞きしますが、これからの学校はどのような場所にすべきとお考えですか？

工藤校長先生：どんな改革をしても良いけど、子どもに向いていない改革はダメですね。管理をして統制して言う事を聞かせると言う教育が、昭和からずっと続いて来ましたが国際的に見ても話になりません。例えば「不登校」と言う概念は外国にはありません。麹町中にひとつ言う事があるとすれば、「子どもに優しい学校」であることを大切にして欲しいです。学校とは「人間が社会の中でより良く生きていくことができる力をつける場」だと考えています。与えられることから「自律型」へと転換し、多様性から生じる対立を受けとめ、対話を通じて合意する力を育んでもらいたいです。

論理的で経験に基づいた言葉に心を打たれました。「日本には江戸時代まで体罰はなかった」「日中戦争以後急激に変わった教育を未だに引きずり多様性を受け入れなくなっている」とのご指摘には深く共感しました。自律の力を育む事とは、これからの日本を創る事に繋がると改めて感じました。工藤校長先生にはお忙しい中お時間を頂き、本当にありがとうございました。

Action 活動フォトギャラリー

国立有明高専関東支部同窓会
学校創立60周年記念として同窓会を開催。数十年ぶりに校歌を唄いました。

Re Birth ARクリスマス
サスティナブルをテーマとしたクリスマスイベントのオープニングに参加。

Coppa di Tokyo 2023に出場
東京を駆け巡るクラッシックカーによるラリーに出場。東京は美しかった。

外濠フットサル チャンピオンシップ
港区と千代田区のフットサル王者を決める大会を開催。選手としても出場。

TSMC熊本工場視察
投資総額は3兆円超となる世界最大の半導体企業TSMCの熊本工場を視察。

Sense 千代田コラム

いせ源本館

1830年（天保元年）中橋広小路（現京橋三丁目）でどじょう屋「いせ庄」として創業、その後お店を神田連雀町に移した際「いせ源」に改称し現在に至ります。当時はあんこう鍋の他にも、よせ鍋、かき鍋、白魚鍋、ねぎま鍋等々、様々な鍋料理を提供されていたようです。しかし、あんこう鍋に人気が集中するようになり、大正時代にあんこう料理専門の店となったそうです。

東京大空襲の戦災から免れた歴史ある建物が数多く立ち並ぶ閑静なエリアに「いせ源本館」があります。1930年（昭和5年）に建設された入母屋造りの木造3階建て、延べ床面積約100坪の堂々とした風情ある店舗建築です。木製の看板や二階の欄間に施された菱形模様が特徴的です。「竹むら」「まつや」「ぼたん」とともに奇跡的に戦災から焼け残り、連雀町といわれたこの地域に昔ながらの情緒を漂わせています。東京都選定歴史的建築物にも選定されています。ちなみに、1657年（明暦3年）の明暦の大火で火除け地として召し上げられ、武蔵野に与えられた代替地が、現在の三鷹市連雀です。

千代田コラムでは、身近にある素敵な建物をご紹介しています。これからも、千代田区にある名建築を探していきたいと思います。

Profile

内田直之（うちだ なおゆき）

1964年、熊本市生まれ B型。
国立有明高専建築学科を卒業後、トステム株式会社（現LIXIL）に入社。事業企画室長や商品企画室長、多くの開発プロジェクト責任者に就任。2011年より千代田区議会議員を3期10年勤め、議会運営委員長や予算特別委員長、会派では幹事長、政調会長を歴任。2021年東京都議会議員選挙に立候補するも次点にて惜敗。一級建築士。

●学歴
国立有明高専建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴
トステム株式会社（現LIXIL）25年間勤務
U&D・パートナーズ一級建築士事務所 代表

●所属団体
一般社団法人 千代田区サッカー協会 会長
千代田区ラグビーフットボール協会 副会長
千代田区軟式野球連盟 顧問
千代田区相撲連盟 顧問
千代田区ゲートボール協会 顧問
明治大学 校友会千代田区地域支部 副支部長
社会保険労務士会 千代田統括支部 顧問
公益財団法人 京葉鈴木記念財団 顧問
自民党東京都支部連合会 都政対策副委員長
一般社団法人 東京建築士会

発行　内田直之事務所　〒101-0041 千代田区神田須田町1-30-1-103　Tel:03-3252-8832　Web:www.uchidanaoyuki.com　e-mail:uchida@tcn-catv.ne.jp